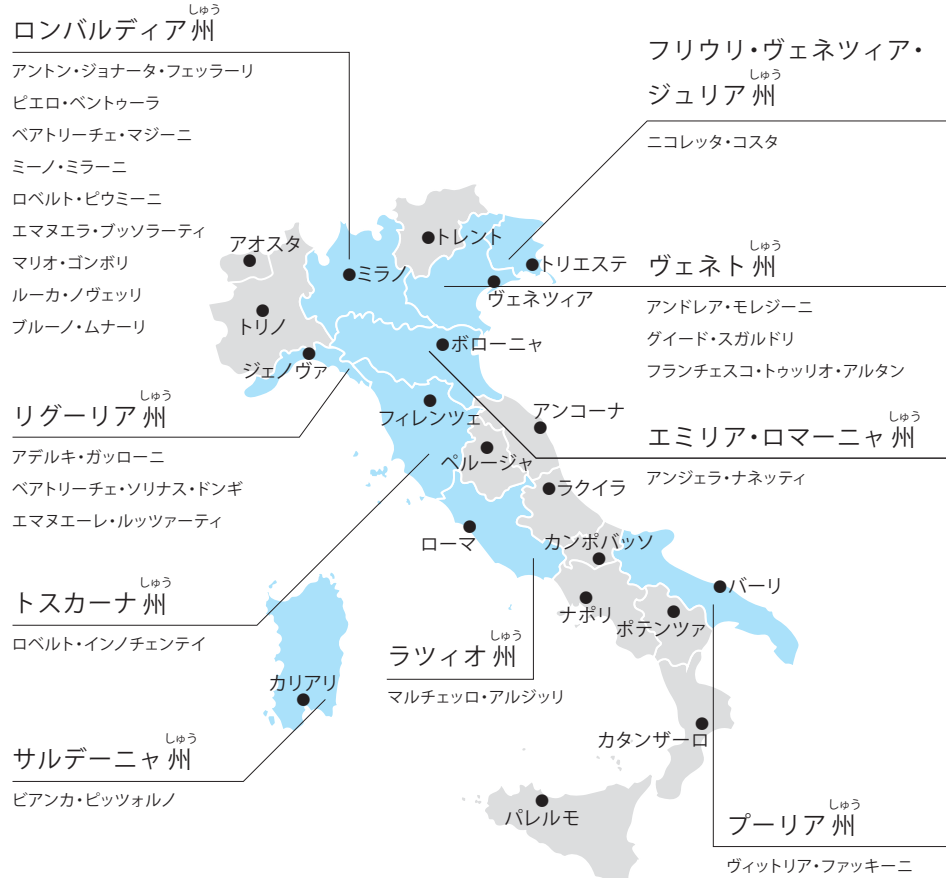


こほん 子どもの本のファンタジスタたちの出身地

21人の作家・画家の出身地を地図に表しました。

*オクタヴィア・モナコはフランス出身のため、地図上に表示していません。



Ciao! Italia
- 'Fantasista Spellbinders' of children's books

こんにちは イタリア

-子どもの本のファンタジスタたち



＜表紙の資料＞

- 〈左〉『くものオルガのゆめ』ニコレッタ・コスタ さく 井ヶ田憲子 やく 成美堂出版 2013
- 〈中央〉『おじいちゃんの桜の木』アンジェラ・ナネッティ 作 アンナ&エレナ・バルブツ 絵 長野徹 訳 小峰書店 2002
- 〈右〉『ピノキオの冒険』カルロ・コッローディ 原作 ロベルト・インノチェンティ 絵 金原瑞人 訳 西村書店東京出版編集部 2013

発行 国立国会図書館 2016年10月25日発行
 編集 国立国会図書館 国際子ども図書館
 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
 TEL 03-3827-2053 (代表) URL <http://www.kodomo.go.jp/>

リサイクル適性(A)
 この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



International Library of Children's Literature
 国立国会図書館 国際子ども図書館

<イタリア・アンデルセン賞について>

イタリア・アンデルセン賞は、月刊誌 Andersen 主催で1982年からはじまったイタリアを代表する子どもの本の賞です。毎年イタリアで出版される優れた子どもの本のなかから、本の対象年齢ごとに分けて選ぶ最優秀読みもの賞のほか、最優秀画家賞、最優秀作家賞、最優秀マルチ作家賞などを選出しています。

国立国会図書館国際子ども図書館展示会「こんにちは！イタリアー子どもの本のファンタジスタたち」（2016年10月25日～12月25日）で紹介した作家・画家の中から22人を取り上げ、解説します。

※作家・画家名の日本語よみは、長野 徹氏（東京大学）にご協力いただきました。書籍の表記とは異なる場合があります。

1. イタリア・アンデルセン賞 最優秀画家賞受賞者

Vittoria Facchini (ヴィットリア・ファッキニー)

1969年、モルフェッタ生まれ。パリー芸術高校の建築部卒業後、フィレンツェの芸術・修復学院で学ぶ。その後、ヴェネツィアでエマヌエーレ・ルツァーティ（6頁参照）に出会い、画家の道を志す。エネルギーあふれる大胆な絵柄が持ち味。



『おとこのこなんてだいきらいだってね…』
2006年受賞 | ヴィットリア・ファッキニー 作 せきぐちともこ 訳 フレーベル館 2000

Anton Gionata Ferrari (アントン・ジョナータ・フェッラーリ)

1960年、プレッシャ生まれ。ミラノのヨーロッパ・デザイン学院を卒業。その後、アニメーション映画の制作に携わった経験を生かし、子どもの本の絵を描くようになる。人々を笑顔にする作品をつくることを大切にしている。



『ココロやさしいワニ』ルチーア・パンツィエーリ 著
2007年受賞 | アントン・ジョナータ・フェッラーリ 絵 さとうのりか 訳 岩崎書店 2012

Adelchi Galloni (アデルキ・ガッローニ)

1936年、ヴァレーゼ・リゲーレ生まれ。ブレラ国立美術アカデミーで学んだ後、実験映画とアニメーションの制作に専念。1965年には、カンヌ国際映画祭の最高賞パルム・ドールを受賞。モンダドーリ出版社の児童書シリーズは、著者の代表作。



『パチッチャのふしぎなアフリカ探検』エルマンノ・リベンツイ ぶん
1987年受賞 | アデルキ・ガッローニ 絵 かわしまひであき やく ほるぶ出版 1976

Roberto Innocenti (ロベルト・インノチェンティ)

1940年、バーニョ・ア・リーポリ生まれ。独学で絵を学ぶ。子どもの本だけでなく、劇場のポスターや本のデザインなどにも取り組む。2008年には国際アンデルセン賞画家賞を受賞した。イタリアを代表する世界的な画家。



『ピノキオの冒険』カルロ・コッローディ 原作
1992年受賞 | ロベルト・インノチェンティ 絵 金原瑞人 訳 西村書店東京出版編集部 2013

Octavia Monaco (オクタヴィア・モナコ)

1963年、フランス・ティオンヴィル生まれ。金細工に興味を持ち、ローニャの美術アカデミーに入学。その後、世界各国で絵本画家として活躍している。2005年以降は同校の講師を務め、子どもや大人に向けた講座やアトリエもひらいている。



『クリムトと猫』ベレニーチェ・カパッティ 文
2004年受賞 | オクタヴィア・モナコ 絵 森田義之 訳 西村書店 2005

Piero Ventura (ピエロ・ヴェントゥーラ)

1938年、ミラノ生まれ。ミラノ理工科大学で建築学を、カステロ美術研究所でデザインを学び、広告の仕事に就く。1981年から子どもの本をつくりはじめ、身近なものから歴史のものまで、幅広い題材を丁寧な描き分ける。数多くの絵本賞を受賞。



『スパルタコさんのまいごのごつみ』
1983年受賞 | ピエロ・ヴェントゥーラ 作・絵 桜井しづか 訳 フレーベル館 1984

II. イタリア・アンデルセン賞 最優秀作家賞受賞者

Marcello Argilli (マルチェッロ・アルジリ)

1926年、ローマ生まれ。大学卒業後、イタリアを代表する児童文学作家ジャンニ・ロダーリに会い、彼の影響を受けて数々の子どもの本を生み出した。科学技術を題材とした作品が多い。2014年に死去。



1989年受賞 『アトミーノは戦争がきらい』M・アルジリ 作 岩崎純孝 訳 永田竹丸 絵 講談社 1974

Beatrice Masini (ベアトリーチェ・マジーニ)

1962年、ミラノ生まれ。記者、編集者を経て、90年代半ばからは子どもの本の作家として活躍。著書は100冊を超える。＜ハリー・ポッター＞シリーズ(3作品目以降)のイタリア語版の翻訳者でもある。



2004年受賞 『ドロドロ戦争』ベアトリーチェ・マジーニ 作 長野徹 訳 汐文社 2007

Mino Milani (ミーノ・ミラーニ)

1928年、パヴィア生まれ。記者として、また、50年以上にわたって作家として活動。代表作は、アメリカを舞台にカウボーイのトミー・リヴァーの冒険を描いたシリーズ。『きっと天使だよ』はイタリアのチェント賞などの賞を受賞している。



1993年受賞 『きっと天使だよ』ミーノ・ミラーニ 作 関口英子 訳 鈴木出版 2006

Andrea Molesini (アンドレア・モレジーニ)

1954年、ヴェネツィア生まれ。大学卒業後アメリカに留学し、現在はパドヴァ大学で近現代文学を教えながら子どもの本を書いている。独自の空想的な表現が織り込まれた『ベネチア人にしっぽがはえた日』は、著者の初期の作品。



1999年受賞 『ベネチア人にしっぽがはえた日』アンドレア・モレジーニ 作 長野徹 訳 汐文社 2006

Angela Nanetti (アンジェラ・ナネッティ)

1942年、ボローニャ生まれ。アブルツォ州の都市ベスカラで中学と高校の教師をしながら子どもの本を書きはじめた。1作ごとに新しいテーマに取り組んでおり、今の子どもたちの現実や感情をリアルに描写している。



2003年受賞 『おじちゃんの桜の木』アンジェラ・ナネッティ 作 アンナ&エレナ・バルブツ 絵 長野徹 訳 小峰書店 2002

Bianca Pitzorno (ピアンカ・ピッツォルノ)

1942年、サルデーニャ島生まれ。大学で古典文学、考古学、映画理論を学ぶ。1970年からイタリア国営放送で子ども番組の制作に取り組むかわら、物語を書きはじめた。



1988年受賞 『ポリッセーナの冒険』ピアンカ・ピッツォルノ 作 ケンティン・ブレイク 絵 長野徹 訳 徳間書店 2004

Roberto Piumini (ロベルト・ピウミーニ)

1947年、エードロ生まれ。教師、俳優などの職業を経て、作家になる。その自由で表現豊かな文から「言葉の魔術師」とも呼ばれる。小説だけでなく、絵本や詩、戯曲、民話の再録など幅広いジャンルを手がける、現代イタリアを代表する作家。



1986年受賞 『光草(ストラリスコ)』ロベルト・ピウミーニ 作 長野徹 訳 小峰書店 1998

Guido Sgardoli (グイド・スガルドリ)

1965年、ヴェネツィア生まれ。新聞や雑誌に携わった後、2004年に初めて子どもの本を出版。現在は獣医として働きながら子どもの本を書いており、動物が登場する作品が多い。



2009年受賞 『りっぱな兵士になりたかった男の話』グイド・スガルドリ 著 杉本あり 訳 講談社 2012

Beatrice Solinas Donghi (ベアトリーチェ・ソリナス・ドンギ)

1923年、セツラ・リッコ生まれ。イタリア人の父とイギリス人の母を持つ。20代前半にイギリスに留学して英文学を学んだ後、作家になる。イギリスの作家・ブロンテ姉妹についての評論や、民話の編纂も手がけた。2015年に死去。



『ジュリエッタ狂の幽霊』ベアトリーチェ・ソリナス・ドンギ 作
エマヌエーラ・ブッソラーティ 絵 長野徹 訳 小峰書店 2005

1987年受賞

III. イタリア・アンデルセン賞 最優秀マルチ作家賞受賞者

*最優秀マルチ作家賞は、絵と文の両方を手がける作家に贈られる賞。

Francesco Tullio-Altan (フランチェスコ・トゥッリオ・アルタン)

1942年、トレヴィーゾ生まれ。1970年にブラジルに移住。映画会社で働きながら子ども向けの漫画をつくり、1974年からイタリアの新聞に漫画を発表。翌年イタリアに戻り、「ピンパ」という赤いぶちのある犬の人気キャラクターを生み出した。



『ピンパとアルマンドさん』フランチェスコ・トゥッリオ・アルタン 著
きたざわきょうこ、ぐんじやすのり やく アーニ出版 1991

1986年受賞

Emanuela Bussolati (エマヌエーラ・ブッソラーティ)

1946年、ミラノ生まれ。大学で建築学を学び、建築家として働いた後、子どものコミュニケーション能力や感情表現の発達を促す教育活動に関わったことをきっかけに、子どもの声に耳をかたむけた絵本づくりを実践するようになる。



『ラビーニアとおかしな魔法のお話』ビアンカ・ピッツォルノ 著
エマヌエーラ・ブッソラーティ 絵 長野徹 訳 小峰書店 2000

2013年受賞

Nicoletta Costa (ニコレッタ・コスタ)

1953年、トリエステ生まれ。ヴェネツィア大学で建築学を学び、卒業後、建築家として働き、子育てを通じて絵本づくりをはじめ。幼い子ども向けの作品が多く、シンプルで軽やかな線と、明るい色彩が特徴的。



『くものオルガのゆめ』ニコレッタ・コスタ 著 井ヶ田憲子 やく 成美堂出版 2013

1994年受賞

Mario Gomboli (マリオ・ゴンボリ)

1947年、プレッシャ生まれ。建築学科を卒業し、建築、漫画、広告などの分野で活躍。近年は図書館を中心に子どもたちとのふれあいの場を持ちながら、若手画家の育成に力をいれている。代表作は、おおかみのくろポロツソシリーズ。



1988年受賞 『どうぶつチャンピオン図鑑.1』マリオ・ゴンボリ 作 林直美 訳 フレーベル館 1998

Luca Novelli (ルーカ・ノヴェッリ)

1947年、ミラノ生まれ。学生の頃から環境問題に興味を持つ。イタリア国営放送の番組制作や、グラフィックデザイン誌の編集に携わる。2001年には子ども向けの科学書により、イタリアの環境保護団体レーガンビエンテに表彰された。



『ガリレオ：地球をうごかした男』ルーカ・ノヴェッリ 文・絵
関口英子 訳 滝川洋二 日本語版監修 岩崎書店 2009

1985年受賞

Emanuele Luzzati (エマヌエーレ・ルッツァーティ)

1921年、ジェノヴァ生まれ。ユダヤ系であるため、第2次世界大戦中の1940年にスイスに逃れローザンヌの美術学校で学ぶ。終戦近くに帰国。絵本のほか舞台美術、アニメーション映画の作り手としても世界的に有名。2007年に死去。



1982年受賞 『アリババと40人のとらさく』エマニュエル・ルッツァーティ 著 ゆあさふみえ やく ほるぶ出版 1979

Bruno Munari (ブルーノ・ムナリー)

1907年、ミラノ生まれ。1926年頃にイタリアの前衛美術運動の後期未来派と出会い、芸術に没頭。デザイナー、アーティスト、研究者などさまざまな顔を持ち、絵本作品にも遊び心あふれる洗練されたデザインを用いた。1998年に死去。



1984年受賞 『どうぶつ30ます』ブルーノ・ムナリー 著 谷川俊太郎 訳 フレーベル館 2011

1984年受賞